

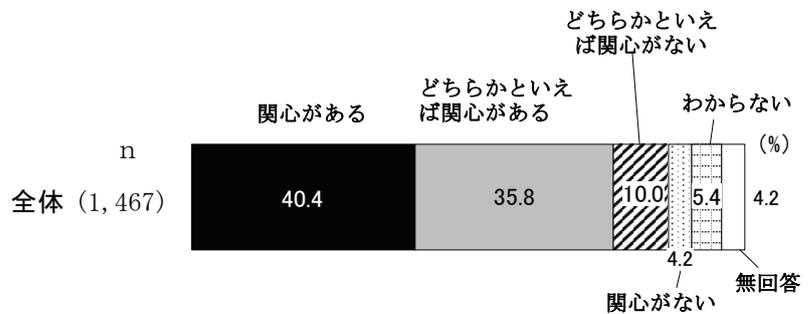
7. 食育への関心と実践度

- 平成 18 年度に「食育」に関する世論調査を実施したところ、食育に関心を持っている人は 7 割台半ばと関心は高いものの、食育に関する活動や行動をしている人は 4 割台半ばにとどまっています。
- 食生活上の指針等を「参考にしていない」あるいは「知らない」が約 6 割に達しています。
- 食品選択や調理の知識があると考えている人は 6 割台半ばでした。

図表—71 平成 18 年度第 32 回県政に関する世論調査結果(千葉県)

(1) 「食育」の関心度

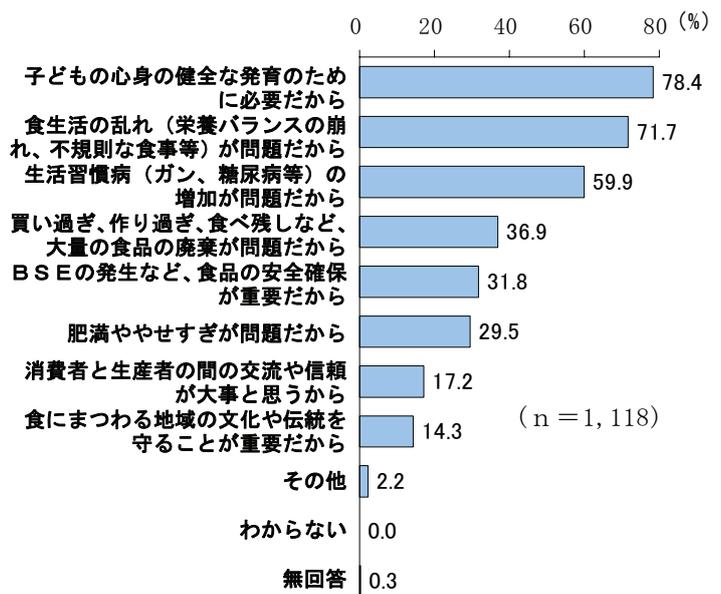
「食育」の関心度を聞いたところ、「関心がある」(40.4%)が4割で最も多く、「どちらかといえば関心がある」(35.8%)を合わせると、『関心をもっている人』(76.2%)は7割台半ばでした。逆に、「どちらかといえば関心がない」(10.0%)と「関心がない」(4.2%)を合わせて、『関心をもっていない人』(14.2%)は1割台半ばでした。



(1-1) 「食育」に関心があると思う理由

食育に関心がある理由をいくつかも選んでもらったところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(78.4%)が約8割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題だから」(71.7%)が7割を超えています。

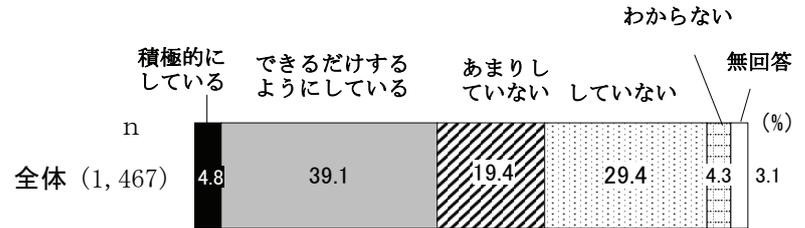
また、「生活習慣病の増加が問題だから」(59.9%)が約6割でした。



(2) 食育に関する活動や行動

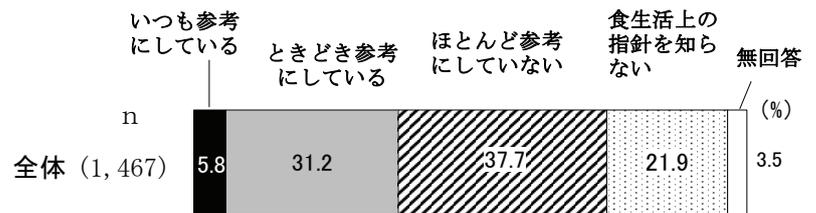
食育に関する活動や行動を聞いたところ、「積極的にしている」(4.8%)は少数ながら、「できるだけするようにしている」(39.1%)が最も多く、これらを合わせると、『している』(43.9%)は4割台半ばでした。

逆に、「あまりしていない」(19.4%)と「していない」(29.4%)を合わせて、『していない』(48.8%)は約5割でした。



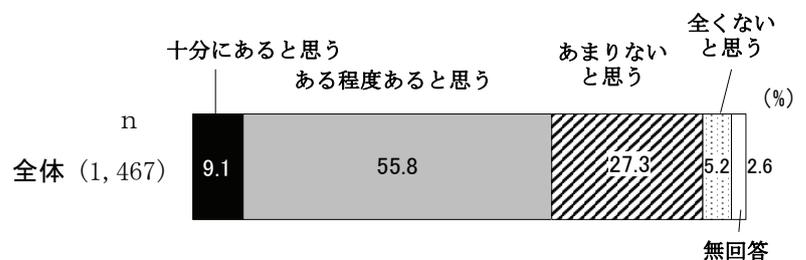
(3) 食生活上の指針等を参考にする程度

食生活上の指針等を参考にする程度を聞いたところ、「いつも参考にしている」(5.8%)は少数ながら、「ときどき参考にしている」(31.2%)が3割を超え、これらを合わせると『参考にしている』(37.0%)は約4割でした。しかしながら、「ほとんど参考にしていない」(37.7%)も約4割で多く、「食生活上の指針を知らない」(21.9%)との回答も2割を超え、これらを合わせると『参考にしていない』(59.6%)は約6割でした。



(4) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

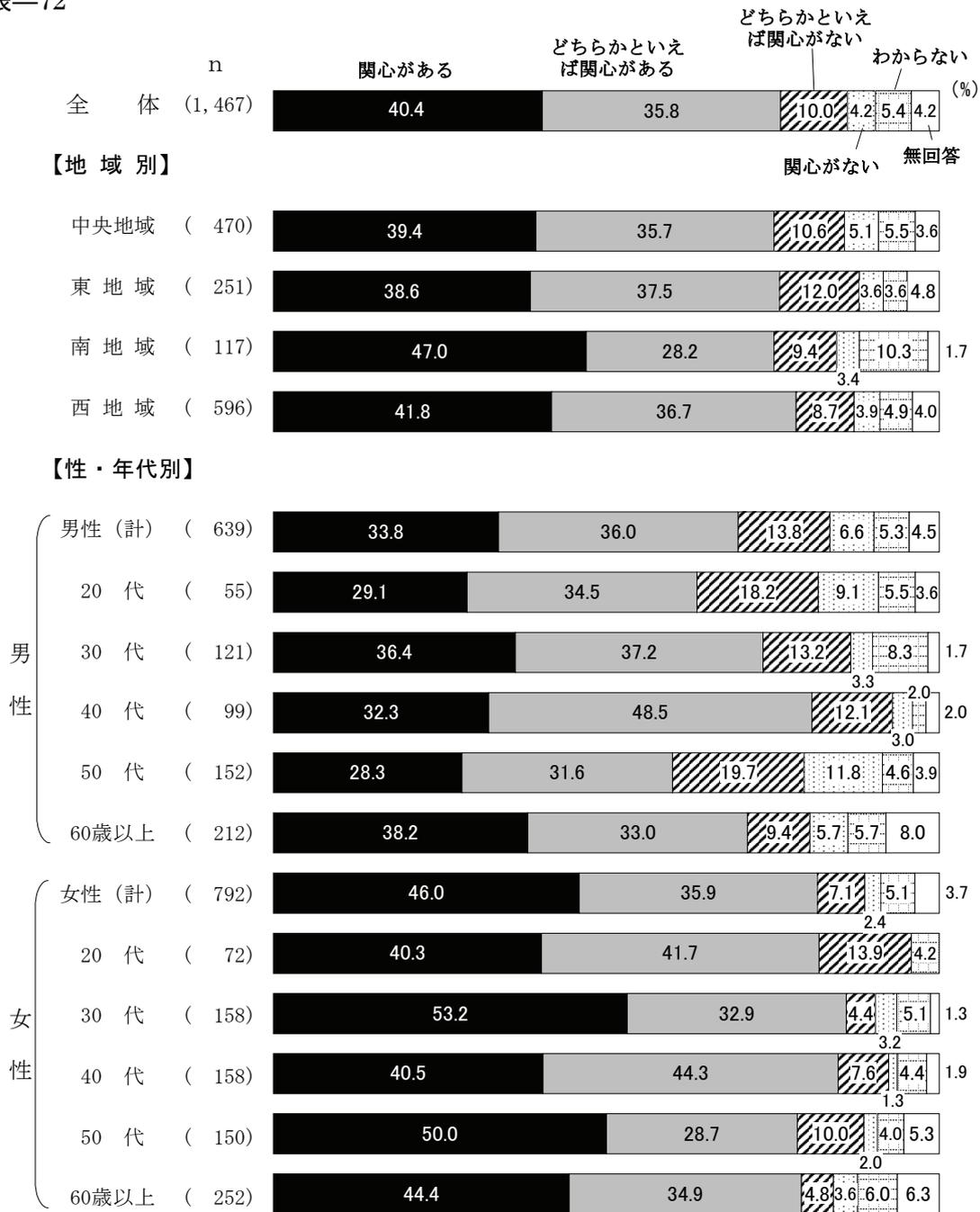
健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識を聞いたところ、「十分にあると思う」(9.1%)は約1割で、「ある程度あると思う」(55.8%)は5割台半ばで最も多くなっています。これらを合わせると、『あると思う』(64.9%)は6割台半ばとなっています。一方、「あまりないと思う」(27.3%)と「全くないと思う」(5.2%)を合わせて、『ないと思う』(32.5%)は3割を超えています。



「食育」の関心度／地域別、性・年代別

関心度は全般的に女性の方が男性よりも高く、特に、「関心がある」は女性の30代(53.2%)と50代(50.0%)で5割以上となっています。『関心をもっている人』としてみた場合、男性では40代(80.8%)で、女性では20~40代及び女性(計)でも8割を超えています。一方、男性(計)では、約7割でした。

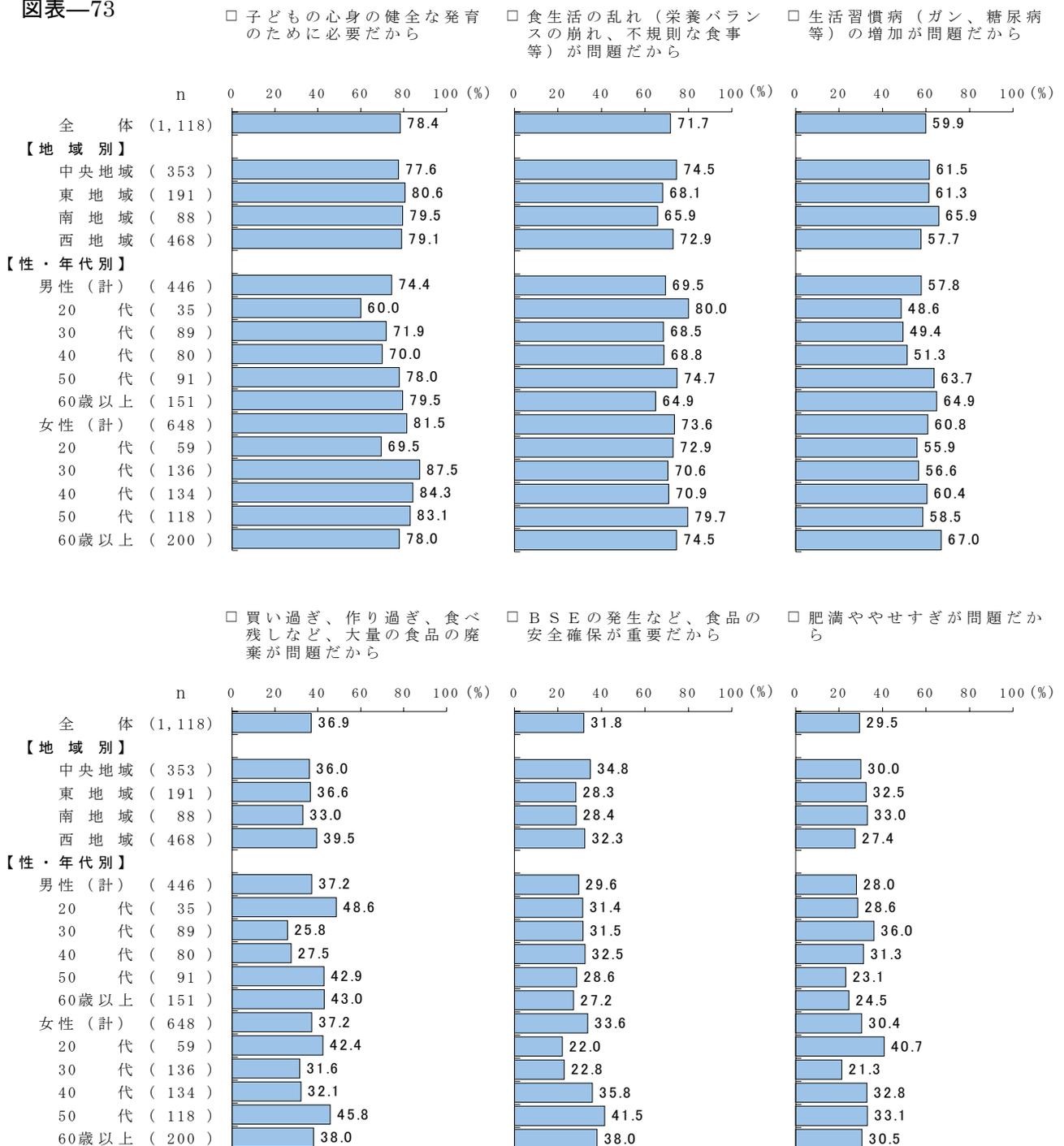
図表—72



「食育」に関心があると思う理由／地域別、性・年代別（上位6項目）

「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、男女ともに20代で低く、男性ではおおむね年代が上がるほど増加する一方で、女性では30代(87.5%)をピークにそれ以降年代が上がるほど減少しています。「食生活の乱れが問題だから」は、男性の20代(80.0%)と女性の50代(79.7%)で8割前後となっています。また、「生活習慣病の増加が問題だから」は、男性の50歳以上と女性の60歳以上(67.0%)で6割台半ばです。このほか、「買い過ぎ、作り過ぎ、食べ残し等、大量の食品の廃棄が問題だから」は、男性の20代(48.6%)が約5割、女性の50代(45.8%)が4割台半ばで、「BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから」は、女性の40歳以上が3割台半ばで、「肥満ややせすぎが問題だから」は、男性では30代(36.0%)が最も高く、女性では20代(40.7%)で4割となっています。

図表—73



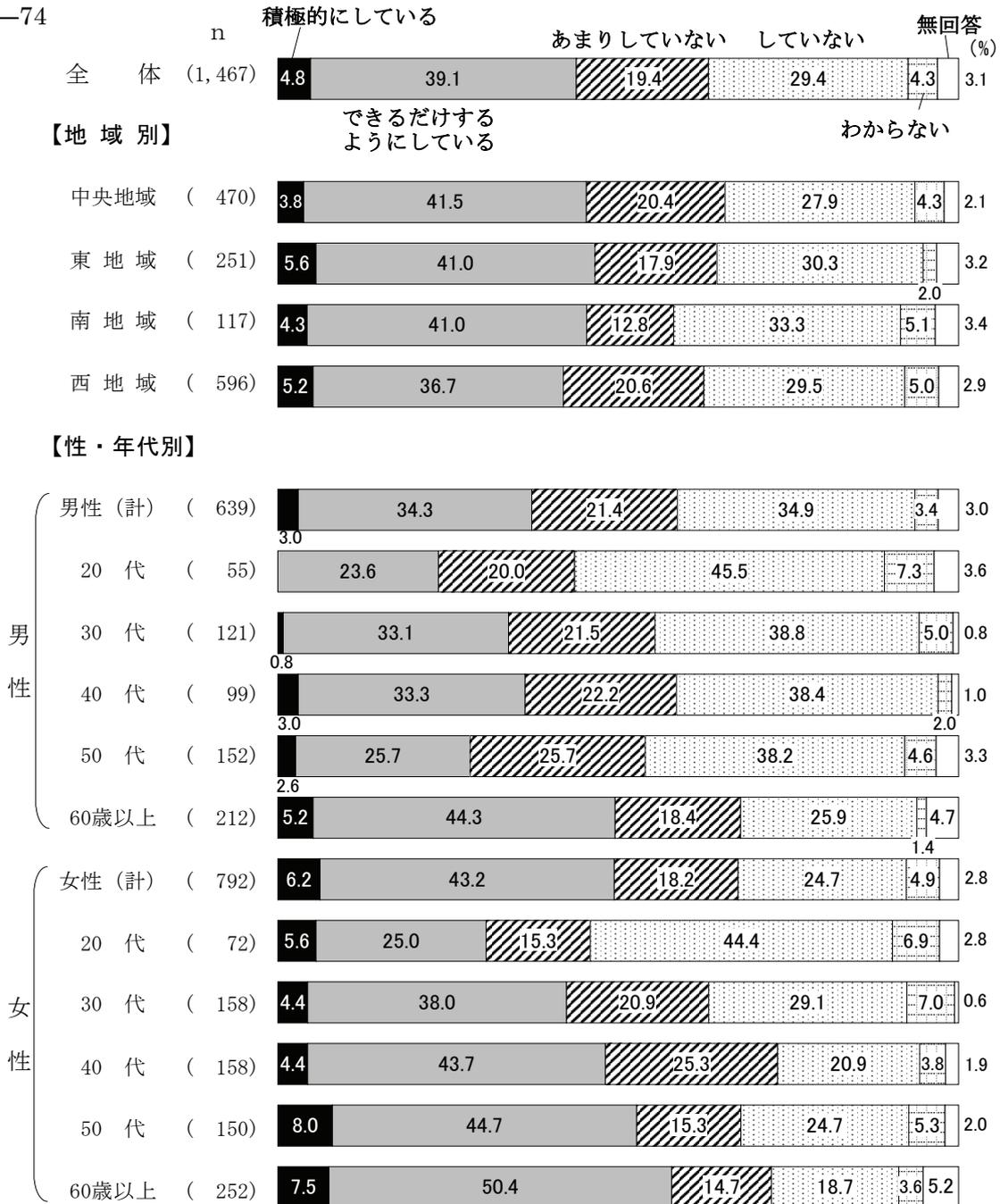
食育に関する活動や行動／地域別、性・年代別

『している』は、男性（計）（37.3%）が約4割に対して、女性（計）（49.4%）では約5割で性別による大きな違いがみられました。

男性では、『している』は、20代（23.6%）が最も低く、60歳以上（49.5%）が約5割で最も高くなっています。逆に、『していない』が20～50代で6割を超えています。

一方、女性では、『している』は、20代（30.6%）が最も低く、年代が上がるほど増加し、50歳以上で5割を超えています。『していない』は20代（59.7%）で約6割でした。

図表—74



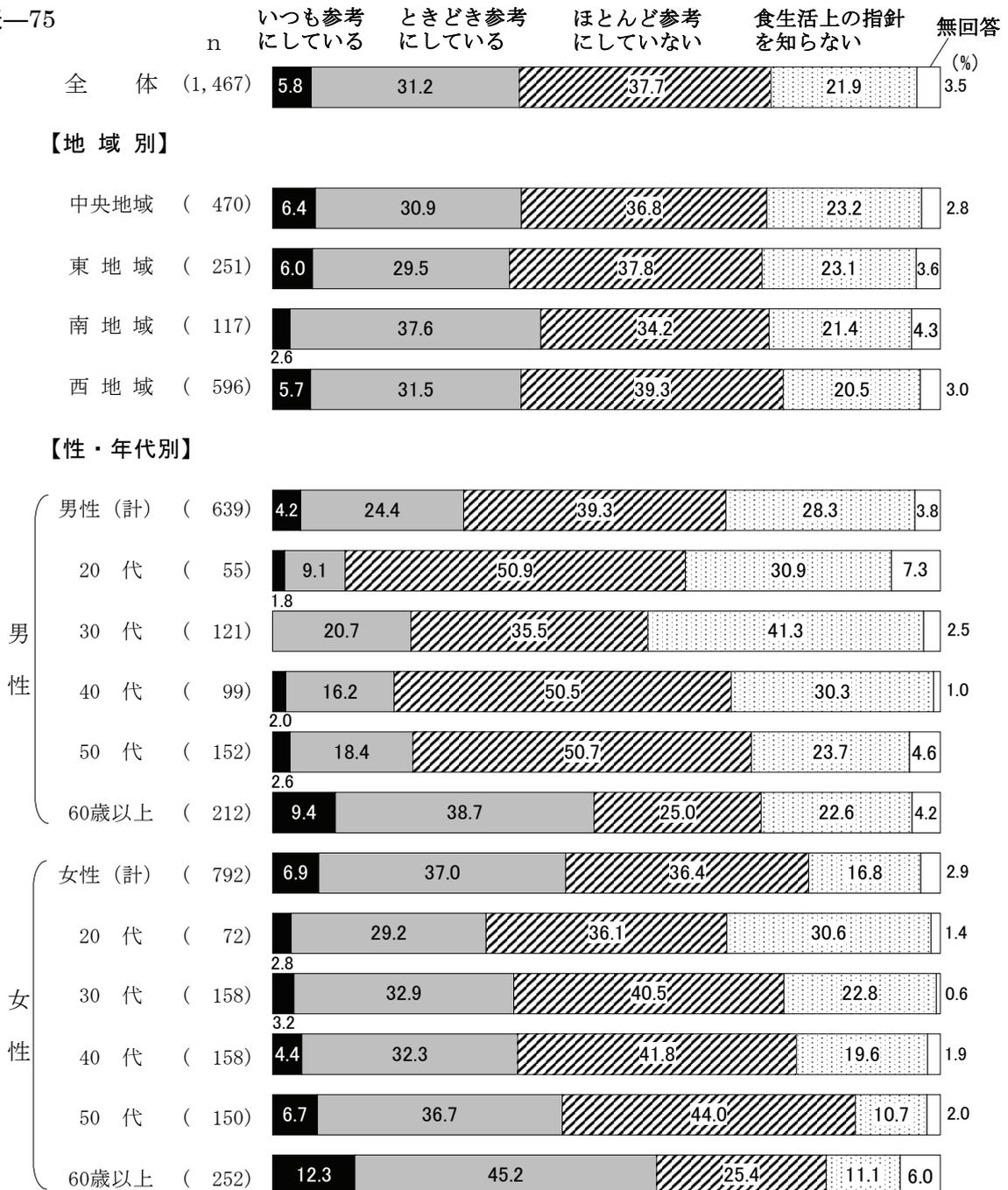
食生活上の指針等を参考にする程度／地域別、性・年代別

『参考にしている』は、男性（計）（28.6%）が約3割に対して、女性（計）（43.9%）では4割台半ばと性別による大きな違いがみられました。また、「食生活上の指針を知らない」は、男性（計）（28.3%）が約3割に対して、女性（計）（16.8%）では1割台半ばと大きな違いがみられました。

男性では、『参考にしている』は20代（10.9%）で1割、30～50代で2割前後と低くなっていますが、60歳以上（48.1%）では約5割となっています。「ほとんど参考にしていない」は、20代（50.9%）と40～50代で5割、また、「食生活上の指針を知らない」は30代（41.3%）で4割を超えています。

一方、女性では、『参考にしている』は年代が上がるほど増加して60歳以上（57.5%）で約6割となっています。「ほとんど参考にしていない」が30～50代で4割台となっている一方で、20代は「食生活上の指針を知らない」（30.6%）が3割となっています。

図表—75

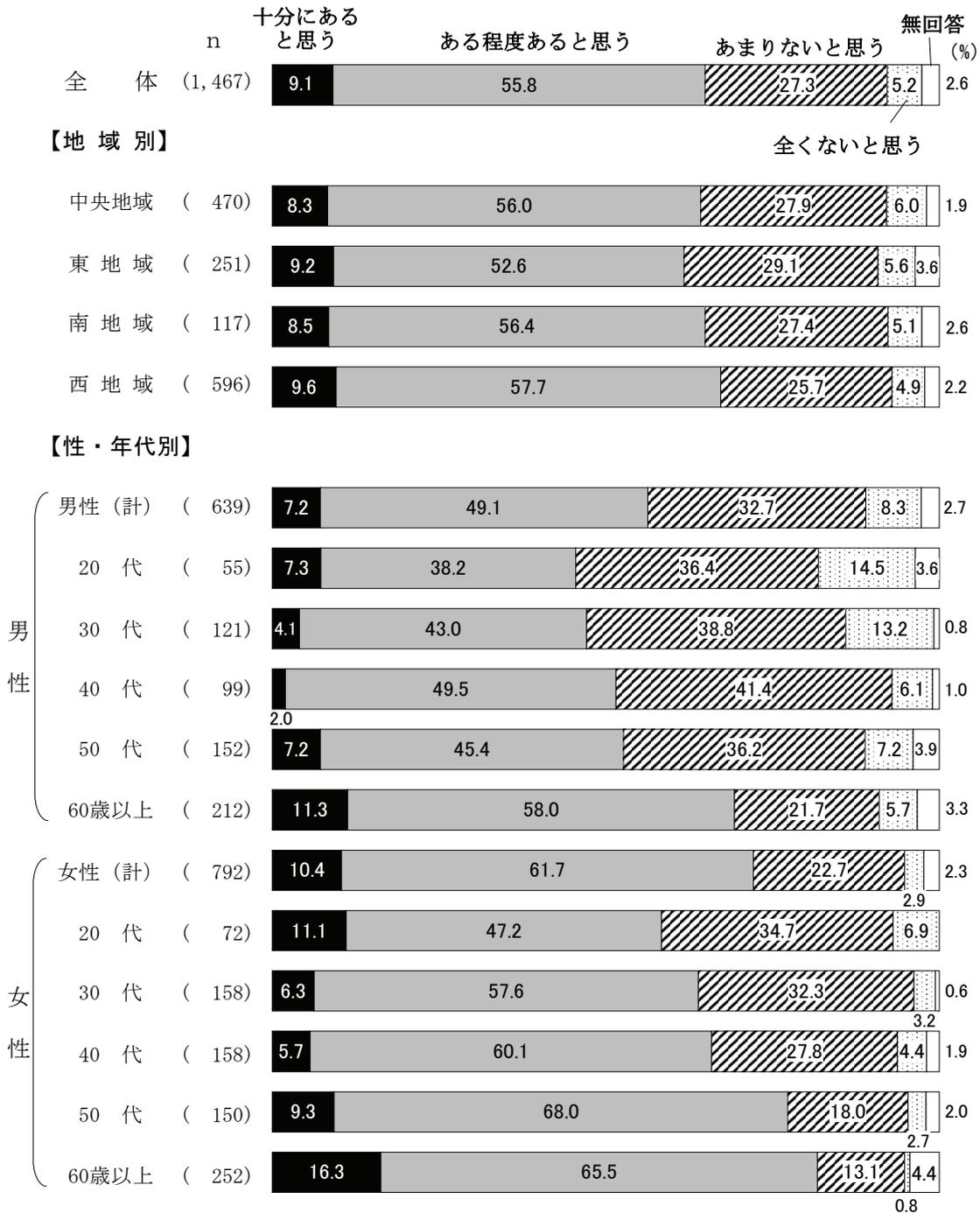


健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識／地域別、性・年代別

『あると思う』は、男性（計）（56.3%）が5割半ばに対して、女性（計）（72.1%）では7割を超え性別による大きな違いがみられました。

『あると思う』は、男女ともに年代が上がるほど増加しており、男性の60歳以上（69.3%）で約7割、女性の50代（77.3%）と女性の60歳以上（81.8%）で8割前後となっています。

図表—76

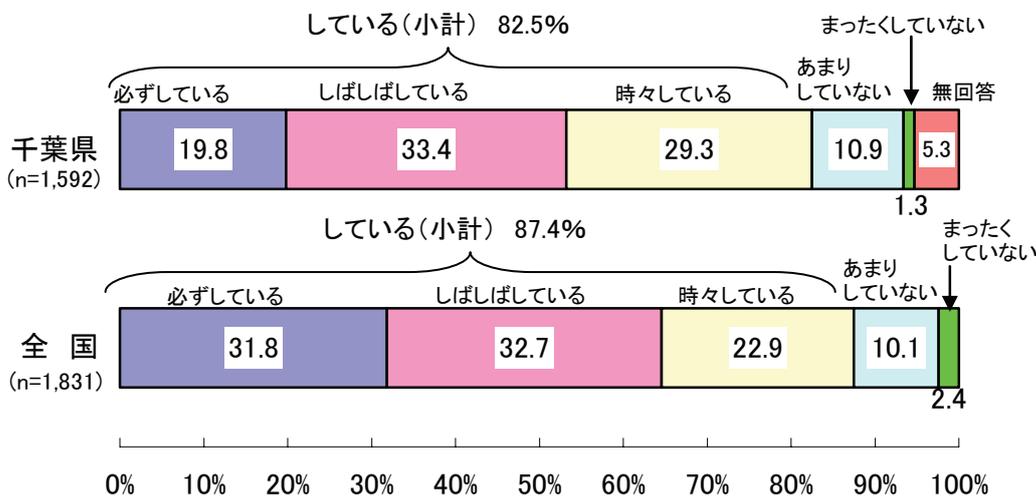


○平成19年度に実施した県政に関する世論調査では、食育の実践について、「栄養バランスに配慮」している人が8割を超えています。また、7割を超える人が「食を通じたコミュニケーション」や「規則正しい食生活」、「食事に関する作法」等を心がけています。「自ら料理に取り組んでいる」という人も7割います。

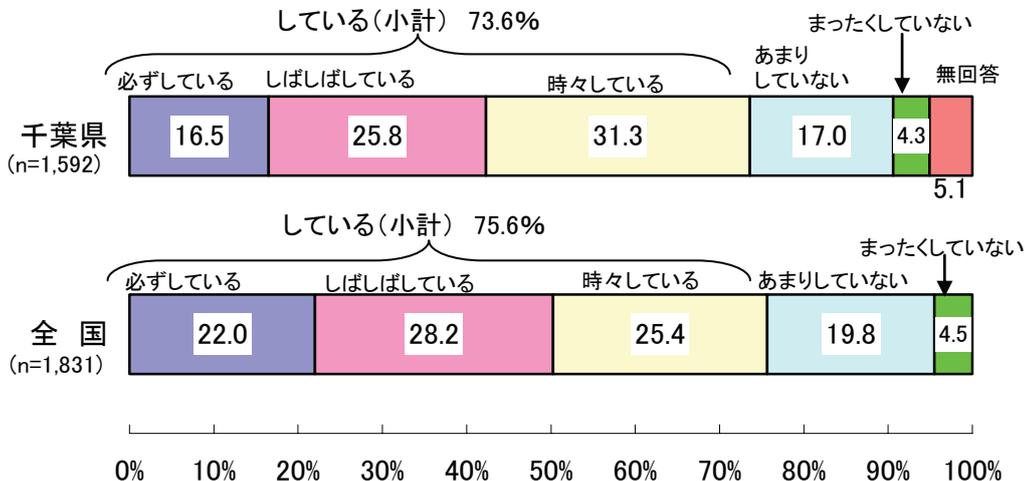
図表—77 家庭における食育の実践

※千葉県のデータは「無回答」を含んでいます。

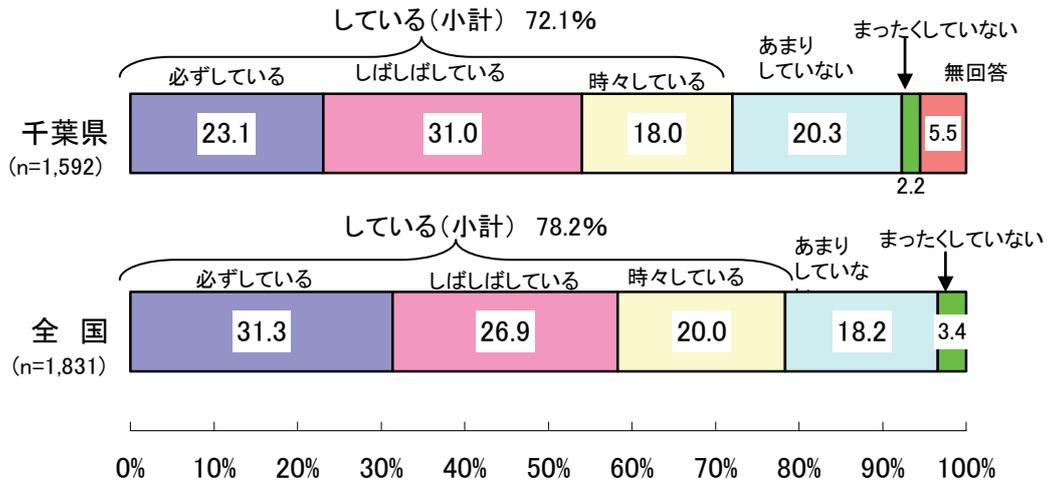
①栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気をつけている



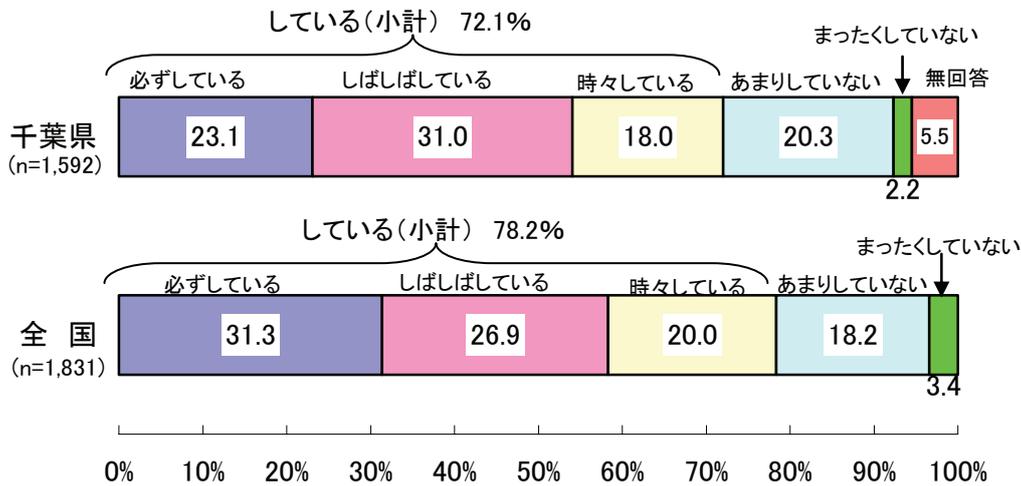
②家族や友人と食卓を囲み、食事を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている



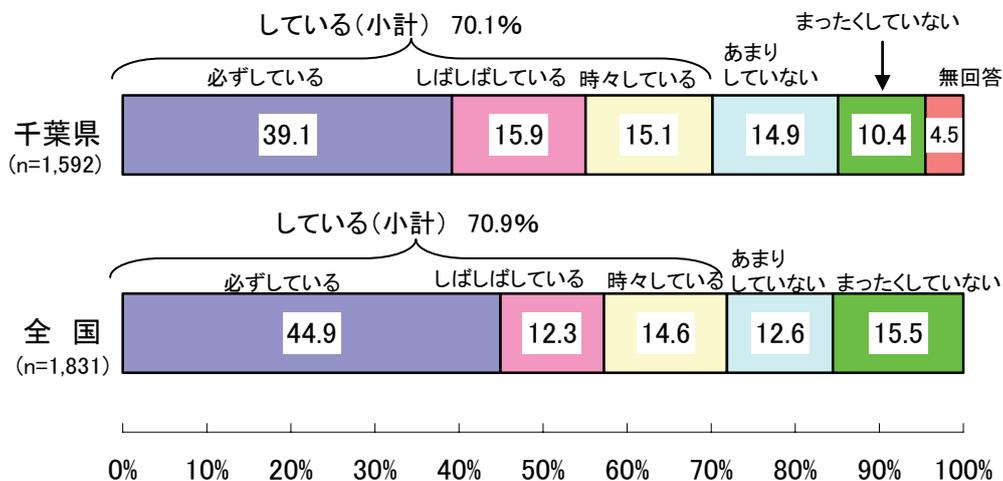
③毎日朝食を摂るなど規則正しい食生活に努めている



④食事に関する作法に気をつけている



⑤自らも料理に取り組んでいる

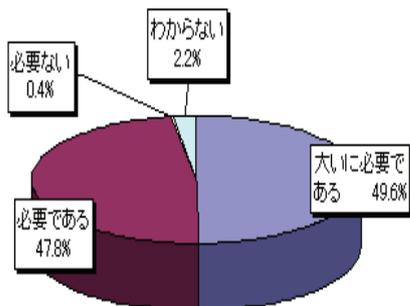


資料：平成19年度第35回県政に関する世論調査結果(千葉県) 食育に関する意識調査報告書(平成19年3月：内閣府) をもとに作成

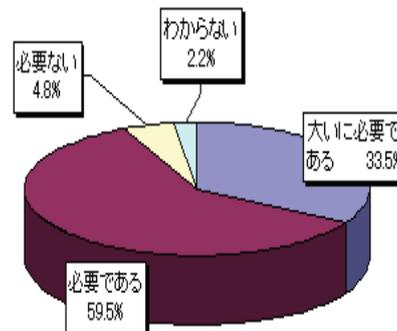
○平成 15 年度に実施した県政モニター調査では、食育の必要性については、9 割を超える人が必要と考えています。特に子どもへの食育の必要性では、約 5 割の人が「大いに必要である」と考えています。

○食育を推進する機関としては、学校が 6 割を超えており、次いで、市町村が約 6 割と高く、地域のボランティアが 3 割弱となっています。地域において、学校や市町村は、食育の推進を中心的に担う機関として期待されています。

図表—78 子どもに対する食育の必要性（千葉県）

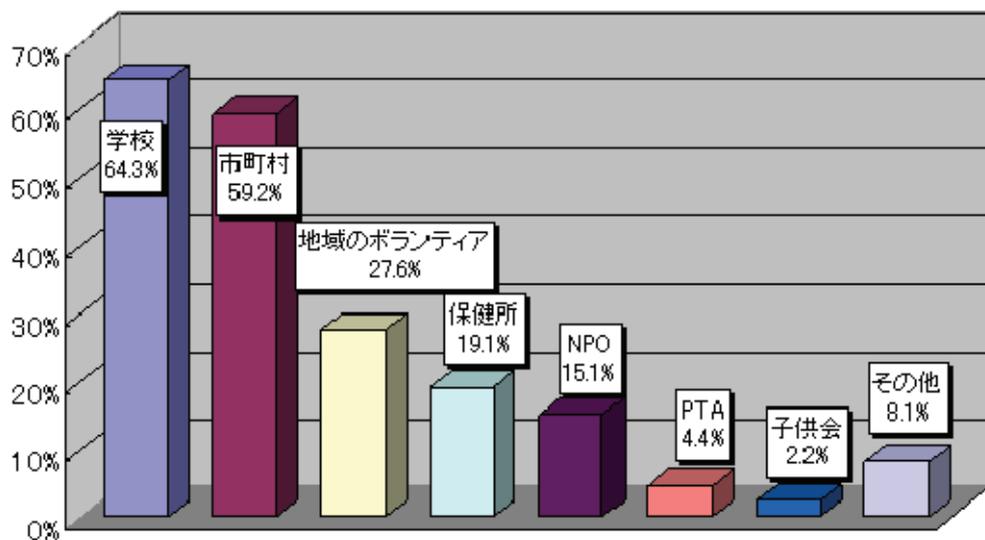


図表—79 大人に対する食育の必要性（千葉県）



図表—80

食育推進を行う機関（千葉県）



資料：平成 15 年度県政モニター調査結果（千葉県）